

■甲ノ原中学校区 B-2 【理想の暮らしとありたい姿】

第1回 八王子市のみんなの未来を考えるワークショップ

甲ノ原地域内にも分断がある。地域全体で協力・連携し合えたら良い

公園

拠点

コンセプトのある公園
→防災
→子ども向け

目的を持った公園がある
防災のための子どものプレイグラウンド
etc

自然と触れ合う山、川、池、丘を利用した体験できる活動や遊び

近くにいせき公園
清水公園ありよく歩くと話してました

清水公園の池が汚い

清水公園はタヌキが出る

雨天でも気軽に遊べる所があるといい

交流

オンライン交流

子供や色々な方が交流できる場

集まる機会の創出
(ソフト面から)

子供が遊べる施設

コロナのため出かけるのが少なくなりさみしいとお話しをしてました

他の例だと朝市で人が集まる時だと聞けるとか

子供など集まれる場が欲しい

子供が地域活動に積極的に参加

サロンに子供を行かせるなど自然発生的な世代間交流

施設がなくなる = 人とのつながりがなくなる

人との輪 = 同じものをつつき合う

意見を言える環境

【現在小学生】
地域行事や防災などに自発的に取り組んでくれる地域を想う大人が増えて欲しい

町会と大学で防災協定を結んでいる

文化

映画館が市内にある好きな映画がすぐ見られる

異年齢(年代)の交流
・スポーツ
・料理
・農業
・IT(パソコンなど)

町会・自治会の活用

【元気に暮らす高齢者】
自分のできる事をできる時に人のために使うことができる

町会と連携した公共施設の整備(プール)

中学校区の区分けより町会・自治会の区分けの方が分かり易いし協力してくれると思う

魅力発信

八王子プライド

何かを発見授業の中で「地域」に関連する活動を増やす

【現在小学生】
市外・県外から訪れる人に八王子の魅力を伝えられる「自己肯定感」

人との交流をしたくない人の豊かさとは？

拠点が整備されているとコミュニティが生まれやすい

インフラ

交流の基盤には、経済的安定と寛容な社会が必要

経済力

経済力
公共施設の充実(公園遊具、道路歩道、学べる施設など)
個人の経済
貧困を無くす
経済格差を無くす

予算も考えることが必要

「普通の生活」が難しい

関わり合いの多様性

交流したくない人を強制しない関わり方を選択できることが大事

1つの軸がありながらも多様性を重視する

行政と地域の関わり合いの変化

八王子の風土を生かしたまちにする

先輩がたくさんいらっしやる

資源・資産
多様な使用

生活スタイルの多様化

社会のあり方

子供と親がコミュニケーションがとれるように職場の理解

教育

教育の予算が充分である

キーワード

関わり合いの多様性

様々な立場の住民が自分に合った地域への関わり方をする事で、地域間・世代間での接点を増やす。

- 年齢層の広い地区
- 大学(工学院・創価)との協性(ウィンウィンな関係) ※甲ノ原地区のみ
- モデル地区との融合
- 座談会・居酒屋・地域のへだたりがない→キレイ、長くあってほしい
- 自然発生的に集まることのできる(全世代)
- 住民協等の現在あるソース(団体など)を使う→接点を作る場

ハード面の改善

ハード面の改善とは別にソフト面の改善も

車を持っていない方も出掛けられる

駅に行きやすく

中野児童館の老朽化

近所の方が車で送ってもらう例がアメリカであった

児童館の活用が必要施設が古い

共助(協助)と公助のバランスを考えていく必要がある

古い施設だと活用がしにくい暗いイメージ

中央図書館の施設が古い暗い

駅から20号までの歩く歩道

自家用車を持たなくても外出がしやすい

【車を持たない人】ネットワークを使って必要な時に車の手配ができる

商店街活性化マンションが多いので規制
商店街がなくなってビルに
マンション規制

京王線のJR八王子駅への乗り入れを促進して欲しい

婦人補導院跡地問題

施設同士の連携

京王八王子
↑
JR八王子

雨の日も退屈しないで子どもと過ごせる場所がある

はちバスの本数が少ない